

笠岡学園の5領域 認知・行動

子ども療育センター笠岡学園の個別支援計画には、5領域といわれる内容が含まれています。5領域では、将来に向けて日常生活や社会生活が円滑に行えるようにすること、お子さんのニーズや課題に適切に対応することなどを目標にしています。5つの領域はそれぞれが独立しているのではなくお互いに深く関連し合っています

認知・行動について、学園での取り組みの一部をお伝えします (担当:原田)

◆「認知・行動」のねらい◆

- ・認知の発達と行動の取得
- ・空間・時間、数などの概念形成
- ・対象や外部環境の適切な認知と適切な行動の取得

子どもたちの気持ちが
ワクワクする療育を
目指していますw



① 感覚や認知機能の向上

視覚・聴覚・触覚などの感覚で得た情報を活用して、認知機能の発達を促します。
・立体物を使った創作遊び、リズムで五感を刺激する遊び、行動の切り替えやストップが含まれる遊びなど



② 行動への認知過程の発達

周囲の状況から情報や必要なメッセージを選び取り、行動に繋げていく力を支援します。
・1日のスケジュールや活動の流れや手順の確認など



③ 認知や行動の手がかりとなる概念形成

物の機能や属性、色、形、音などの変化、空間や時間の概念を知り、認知や行動の手がかりとして使えるようにします。
・日付、天気、空間、時間などの情報に触れる。数量、大きさ、色の違いに気付くなど



④ 適切な行動の取得

感覚や認知の偏りなど個々の特性に配慮しながら、集団での適切行動に結びつくよう支援します。
・ソーシャルスキルトレーニング (道路歩行の仕方、正しい道具の扱い方、公共の場でのふるまいなど)



⑤ 認知の偏りへの対応

個々の特性に配慮しながら情報処理が適切にできるよう支援します。(例:こだわりや偏食への支援)
・調理活動を通した食育、小集団ゲームでの適切な行動形成支援など

